

爽やかな秋晴れのもと、全社屋内消火栓操法競技大会を開催

C S Pの警備の基本となる、屋内消火栓操法の技量を競い合う全社競技大会が10月4日、主要警備先の一つ、東京都千代田区大手町の三井物産本社皇居前プラザで開かれました。

本社をはじめ5事業部、15支社の21チーム、84選手が参加して日頃鍛えた腕前を競い合うこの大会も18回を数えます。

開会式では、大会長の福西幸夫社長から「今日の大会は、春の基本実技審査会と並ぶ当社の大変重要な大会です。皆さんの日頃の鍛錬の成果をのびのびと発揮し、お互いに学び合う場にして頂きたい」と挨拶がありました。

札幌支社の演技からスタート。競技は、今回も地元の丸の内消防署、鹿野和美警防課長(審査長)と3人の消防官による厳正な審査のもとで進められました。

屋内消火栓操法は、警備先で万一火災が発生した時、常備の屋内消火栓を使って初期消火に当たるためのもので、お客様の大切な資産をお守りする警備員の「表芸」であり、必須の技能です。



休日の都心オフィス街に選手達の元気なかけ声がこだまする中で、大会は進められた